

多文化共生教育コース 東慧人 (1年)

受入機関: グルノーブル・アルプ大学附属フランス語学教育センター

キャンパス・フランス (2019年9月2日～27日)

謎のフランス留学

4月の入学当初、何となく決めた第二外国語であるフランス語。なぜか1か月フランス留学していました。同機は好奇心と興味とノリです。1か月の留学はその程度の動機で良いと思います。あとはお金との相談ですが。そんなわけでフランス短期留学を決めたわけ



ですが、直前になってやはり、なぜ自分はフランスに行くのだろう。英語圏ではなくて。という考えが直前2週間ほど頭から離れませんでした。ですが、今となっては今までの人生で1番充実した1か月であったと思っています。



語学学校での生活

語学学校は週5日の1日3時間程度で、午前か午後のみ。一見少ないと思うかもしれませんが、語学学校はこの程度が妥当です。最初は私も、せっかく行くのに勉強できないじゃん!と思いました。今思えば、たった1か月のフランス滞在で朝から夕方まで勉強というのなかなかの苦痛です。学校が終わると仲間たちとダウンタウンにお出かけ。教会や大聖堂、フランスでしか食べられないものを食べに行きました。マカロンやエクレア、バゲットなどは日本にもありますが、本場の味は別格!日本のフランスパンはフランスのバゲットとは別物です…笑

クラスの構成は、10人程度の少人数で、下のクラスは主に日本人と中国人、少数、アメリカやメキシコの方がいました。授業は完全にフランス語で、分からなくても辞書を片手にフランス語のシャワーを浴び続けます。この点からも、フランス語ド素人だからこそ有意義な時間を過ごせると思います。もし、話せるようになることが目的ならば1年間の留学にすべきだと感じました。そういえば、IKEAに行ったら辞書のフレーズ集で覚えたフレーズを応用して店員さんにフランス語で在庫を確認したときは非常に興奮したのを覚えています。ただの辞書より、覚えて使えるようなフレーズ集付きのものがおすすめです!

休日の過ごし方



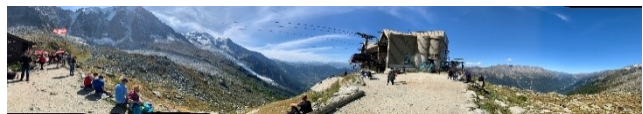
休日はこの留学で一番思い出に残るポイントかと思っています。私は休日に、グルノーブルの名物であるロープウェイや、世界史の教科書で拝むような巨大な絵画が展示してあるグルノーブル美術館に行きました。この留学の醍醐味は、言語学習はもちろんですが、一番はその場で仲間を作れることだと思います。日本人の友人を通して寮に遊びに行ったときにロシア人やインド人、中国人と、グルノーブル大学ではフランス人の方と話すことができました。今の時代

はインスタグラムという世界規模のコミュニケーションツールがあるので、帰国した後もコンタクトが取れますし、語学勉強の継続にもつながります。

さて、キャンパス・フランスへの参加を決めた方が次に悩むのは、寮かホームステイか、ですよね。私はホームステイで、ファザーとマザーと私の3人で生活を送りました。ファザーが英語を話せたのでコミュニケーションは取れましたが、マザーとはほとんど取れず悔しい思いをしました。私の体験はこの程度にして、独断と偏見で述べると、寮のほうが充実した生活が送れると思います。かなり多国籍の人が生活しているので毎日がパーティーのようで嫉妬していました(笑)ただ、ホストファミリーの存在は大きなもので、なぜ漫画ショップがあるのか、日本の皇族とグルノーブルの関係など様々なことを聞きました。実はこの体験記を執筆しているのは留学を終えてから5か月後ですが、つい最近のように記憶がよみがえってきます。そのくらい、私にとって貴重な経験となりましたし、間違いなく今後の人生に影響を与えたと思います。



今後について



私の今後の目標は、ホストファミリーとフランス語で会話することです。そのうちもう一度フランスに訪れようと考えているので、その時までには話せるよう努力し続けようと思います。ちなみに、学芸にグルノーブルからの留学生がいるので、地元トークのようなことができますよ!!最後に、この留学は当然A4二枚で終わるような体験ではなく、いくらかでも書いてしまいそうです。少しでも悩んでいたら、心の底からおすすめします。お読みいただきありがとうございました。

P.S. フランスはフレンチタコスが最高においしいです。

4週間で5回も食べました。

